

感動の  
歌津  
玉手箱





# 感動の玉手箱・歌津

母なる太平洋に抱かれた、ふるさと歌津。

南三陸金華山国定公園の北端に位置し、

太平洋に長く突き出た歌津崎、

リアス式海岸特有の深い入り江をなす

伊里前湾などの海岸線は、

いつの時代も変わることなく波を受け止め、

美しく、確かな時を刻んできた。

この紺碧の海を、二億四千二百万年前もの昔、

魚竜ウツザウルスが泳いでいたのだ。

そんな太古のロマンあふれる海は

一方で恵みの海でもある。

沖合の金華山・三陸沖漁場は世界三大漁場。

独特の地形と豊かな森の恩恵を受け、

カキ、ホタテ、ワカメなどの育む漁業も発展した。

海はいつも町の歴史を見守り、

私たちの生活の中にあつたのだ。

町のシンボル田束山の山頂からは

大海原のまた違った表情を見ることが出来る。

沖の彼方には金華山が見え、

春、山がつつじの紅色に染まり活気あふれる

季節を迎えると、海の輝きもよりいっそう増す。

雄大にして繊細な自然の美しさを

目にするたび、その懐の深さ、力強さに

心を揺さぶられるのはなぜだろう？

この海と大地に育まれ、私たちは歩んできた。

そして、あたたかな心のふれあいを重ねてきた。

自然を愛し、伝統を守りながら、

培ってきた新たな活力、薫り高い文化。

いつの日も、こどもたちのはじける笑顔が

似合う町、感動に満ちた町であるために。

生命力あふれる南三陸の海を泳ぐように、

私たちは日々感動しながら、前進していく。

ふるさと歌津は、これからも輝き続ける。

## 歌津町民憲章

私たち歌津町民は、  
霊峰田束山と広大な太平洋に理想を求め、  
うるおいのある平和な町をつくるため、  
この憲章を定めます。

一、心身を鍛え礼儀を守り

明るい町をつくります。

一、勤労を尊び生産に励み

豊かな町を造ります。

一、教養を高め文化を築き

住みよい町をつくります。





歌津町長 牧野 駿

歌津町は、宮城県の北東部、本吉郡のほぼ中央部に位置し、北西に霊峰田東山を配し、東面は太平洋に臨み、リアス式海岸一体と田東山山頂部は、南三陸金華山国定公園の一角を形成しています。遙か太古の昔から、海、山、大地の恩恵を受け継いで、有史以来一つの村落として合併も分離もされることなく開拓され今に至っております。

明治二十二年の町村制のもとに人口二九〇四名、五〇四世帯の農、漁、山村として発足以来百十六年を迎え、更に昭和三十四年四月、皇太子殿下御成婚時に町村制を施行し四十六年となりました。先人の英知とたゆまぬ努力により、幾多の困難と試練を乗り越えて豊かな風土、多様な文化を育みながら着実に発展し住みよい町を築いてまいりました。そのご労苦を思うとき、感激ひとしおの思いが胸に迫ります。

平成の時代に入り、景気の長期低迷、少子高齢化の進展、更には行財政の効率化と地方分権を目指した市町村合併気運の厳しい現実を痛感し、将来ともに持続的な住民の幸せを思い、行政面、生活面、産業面でのつながりの深い志津川町と更なる福祉の向上や行政の効率化の運営を目指して、来る十月一日に合併し、「南三陸町」が誕生します。合併の協議が始まって以来、議員各位をはじめ町民皆様方のご理解とご協力により今日を迎えることが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

このたびの合併により歌津町としての幕を閉じることになりますが、「歌津」が無くなるわけではありません。今後も地域の皆様のお力を得て、安全で安心して暮らせる町づくりを更に進めていくことに変わりはありません。

新町の将来像は、「豊かな自然、集う人々、やすらげるまち、そして、にぎわい」とし、「自然との調和の中で人々が交わり、魅力を創り出すまち 南三陸町」をサブタイトルに、新町建設計画の具現化に努めるものと確信しております。

この記念誌は、閉町をテーマに歌津町の歩みを、次代を担う人々に伝え残すために、町の様子をより広くご紹介いたしました。懐かしい写真や手記等協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

最後になりましたが、これまで地域発展に尽力されてこられた方々、歌津町民の皆様方に対し改めて感謝申し上げます、皆様方のこれからのご活躍とご健勝、さらに新生「南三陸町」の発展をお祈り申し上げます、閉町にあたってのごあいさつと致します。



歌津町議会議長 阿部 建

歌津町は、明治二十二年四月市町村制が施行され歌津村が誕生、以来一一六年間にわたり明治・昭和の大合併が推し進められながらも、弛まぬ努力と研鑽に励み自立の道を選択し、数々の歴史と伝統を築いて今日に至りました。

しかしながら、平成に入り、国は地方分権社会の推進、少子高齢化社会への対応、国・地方の厳しい財政状況への対応、さらには、多様化・高度化する住民ニーズへの対応、生活圏の広域化への対応を市町村合併に求める政策を打ち出しました。このことにより、全国的に合併気運が高まり、平成十八年三月末には現在の三、二三二市町村から一、八二二市町村に再編される見込みとなりました。我が歌津町も志津川町との合併が平成十七年十月一日に決まり、新たに南三陸町が誕生することとなり、「歌津」一一六年の歴史に幕を閉じることになりました。

歌津町を閉じることには限らない寂しさ、遣る瀬無い思いがいたしますが、これも偏に町民福祉の向上と将来思考の見地等を考えればこそその決断であります。

どうかこれまで歌津町で培われてきた生活文化・伝統を生かしながら、新町の町づくりに対して今後ともこれまで同様に町民皆様方のご協力を賜りたいと存じます。

結びに、町民皆様方の益々のご健勝・ご多幸と「南三陸町」の均衡あるご発展を心からご祈念申し上げ、閉町にあたっての御挨拶といたします。





⑤



①



⑥

# 46年 歌津町の

- ①歌津大橋開通(昭和47年10月)
- ②チリ地震津波伊里前商店街(昭和35年5月)
- ③気仙沼線全線開通(昭和52年12月)
- ④平成の森野球場完成、イースタンリーグ巨人対大洋戦(平成3年8月)
- ⑤⑥創作ミュージカル(平成16年10月)



②



③



④



昭和34年	4月	町制施行(総理府告示第90号) 初代町長阿部権之丞氏 人口7,394人 世帯数1,005世帯
昭和35年	3月	歌津町公民館新築
	5月	チリ地震津波襲来
	6月	町長に阿部権之丞氏当選
	10月	漁港整備事業開始
	10月	国勢調査 人口7,052人 世帯数1,080世帯
昭和36年	11月	名足小学校校舎新築
	11月	白山地区に電灯設置(無電灯地区解消)
昭和37年	4月	全住民検診開始
昭和38年	10月	学校給食共同調理場建設(小・中学校完全給食開始)
昭和39年	6月	町長に牧野興次氏初当選
昭和40年	4月	歌津町出漁会結成
	6月	吉野沢にごみ焼却場落成(ごみ収集業務開始)
	7月	伊里前川防潮水門完成
	10月	国勢調査 人口6,663人 世帯数1,117世帯
昭和41年	3月	上沢分校廃止(スクールバス運行開始)
	6月	歌津町商工会設立
	12月	伊里前小学校中央校舎増築
昭和42年	4月	歌津町交通指導隊発足
	6月	歌津町文化財保護条例制定
昭和43年	6月	町長に牧野興次氏当選
	6月	明治100年記念植樹
	10月	歌津郵便局舎新築
	10月	町章制定
昭和44年	3月	林道小屋の沢線開通(4,612m)
	4月	農集電話開設(834戸)
	6月	泊漁港二種漁港に昇格
昭和45年	3月	港分校廃止
	5月	中西縫製(株)創業(現チトセソーイング(株))
	6月	全町有線放送開設
	9月	ウタツギヨリユウ化石発見
	10月	国勢調査 人口6,455人 世帯数1,185世帯
昭和46年	4月	田束山レストハウス開設
	5月	児童手当支給業務開始
	7月	上水道事業に着手
	8月	保原水産名足工場創業
	10月	田束山経塚群11基発見
	11月	名誉町民に阿部権之丞翁推戴



田束山経塚群発見(昭和46年)



上沢分校とスクールバス(昭和41年)



ウタツギヨリユウ化石発見(昭和45年)



チリ地震津波襲来(昭和35年)



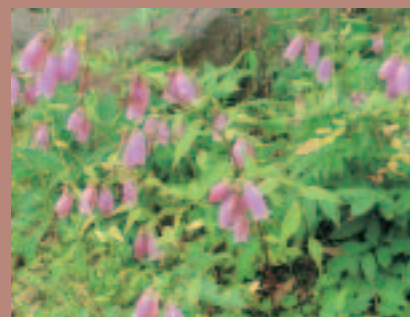
町制施行記念パレード(昭和34年)



役場落成式(昭和30年)



昭和31年頃の伊里前地区



なつかしい故郷の花の一つである。

螢袋  
歌津村の初夏は、山背が吹く。北東風の山背は凶作の原因。霧か小雨も一緒の風景の中、下向きに楚々と咲く。

家号の下小路家はわが家の北隣り。明治29年の大津浪で高台に。わが家は昭和8年の津浪で流出。村にも部落にも宿命的な要素はまつわる。隣りの、朝草刈りの馬の背にもこの花はあった。

私は津浪で頭と足に大怪我。軍医の「砂をとる、坊主にしろ」の声に泣き叫んで抵抗。大きな炉の中に流れ落ちての命拾い。

土手の螢袋を見つけ、麦畑の中を行くと、ひばりの巣の卵を、大きな青大将がねらう。親は急を告げ、地表近くを、はげしく上下していた。当時の里山が目に見え、子供達はこの花を梅酢に漬け、ふくらませて遊ぶ。「アンブクレンコ」と呼んで特に親しんだ。



東京都中野区在住(名足出身)  
男澤 妙子さん

昭和40年代の地方交付税の算定  
毎年全国各地道府県毎に7月、8月頃にかけて地方交付税の算定が行われる。

宮城県に於いても地方課(現在は市町村課)より県内各市町村に算定期日の通知があり全市町村から総務課長と財政係が仙台に出張する。(小生が担当の時の総務課長は故佐藤榮太郎名誉町民であった)

当日午前中は地方課長そして財務係長よりの説明を受ける。午後から県内全市町村の担当者、それぞれが会場(旅館)に分れて算定会場まで真夏の暑さの中を資料を持って汗びっしょりになって歩いた。説明会場が算定会場から遠い場合は大変だった。

計算は殆んど算盤を使用し(計算機はなかった)算定の用紙に記入していく。検算を済ませた町村から県職員による検収が始まる。読み上げが早いので珠算の上級検定を受けているような気持で張りつめていた。こちらで答えを告げると正確な場合は「受け取った」となる。この言葉を聞く度に、ほっとしたものである。

本吉地方のうち津山町を除く4町(唐桑、本吉、歌津、志津川)の宿は二十人町の三盛館だった。(現在はもうなくなっているか不明)4町の検収が終れば県職員(2名位)を招待しての夕食兼慰労会となる。この思い出は終生忘れられない。その後手動による計算機が発売され計算事務はかなり楽になったが計算機が重く説明会場から計算会場まで移動するのに大変だった記憶が今も残っている。



(名足)  
佐藤 直三さん



昭和47年	4月	学校給食パン加工民間委託(朝日堂)
6月	町長に千葉雄一氏当選	
9月	歌津中学校校舎落成	
10月	歌津大橋開通	
10月	志津川消防署歌津出張所開設	
昭和48年	3月	町道泊崎半島線県道に昇格
昭和49年	2月	伊里前・名足小学校タイムカプセル埋設(開校百年記念)
7月	上水道事業完成	
10月	伊里前小学校屋体・プール落成	
昭和50年	9月	ウタツギヨリユウ化石、国の天然記念物に指定
10月	国勢調査 人口6,267人 世帯数1,235世帯	
昭和51年	2月	名足小学校屋体落成
3月	町民憲章制定	
6月	町長に佐藤榮太郎氏初当選	
8月	名足小学校プール完成	
9月	町道弘川線県道に昇格	
9月	全町ダイヤル式電話化	
昭和52年	2月	町花(つつじ)、町木(まつ)、町鳥(かもめ)制定
4月	国土調査事業開始	
4月	町史編纂に着手	
4月	田束山経塚群、県の史跡に指定	
4月	伊里前保育所、泊、港保育園が町立になる	
6月	町営歯科診療所開設	
12月	国有鉄道気仙沼線全線開通(現JR気仙沼線)	
12月	名足保育園園舎落成	
昭和53年	4月	町営バス運行開始
5月	第1回田束山つつじまつり(歌津音頭発表)	
6月	無線放送開始	
6月	吉野沢に宅地分譲団地造成	
6月	上田クリニック医院開業	
6月	歌津歯科診療所(臼井医師)開業	
6月	宮城県沖地震発生	
昭和54年	1月	歌津町商工会館落成
3月	田束山及び海岸線国定公園指定	
3月	住民税電算導入	
6月	町制施行20周年祝賀実施	
11月	青年団コーラス全国青年大会最優秀賞受賞	
11月	名誉町民に梶原良雄翁推戴	
12月	町立港保育園園舎落成	
昭和55年	6月	町長に佐藤榮太郎氏当選
10月	国勢調査 人口6,156人 世帯数1,271世帯	
12月	「クリスマス低気圧」大被害(被害額4億円)	
昭和56年	1月	保健センター落成
4月	寄木・泊浜・馬場・石浜地区畑地基盤整備事業実施	
4月	学校給食共同調理場吉野沢に移転新築	
9月	集中豪雨伊里前川氾濫 雨量295.7mm	
昭和57年	4月	家政学院廃止



集中豪雨伊里前川氾濫 (昭和56年)



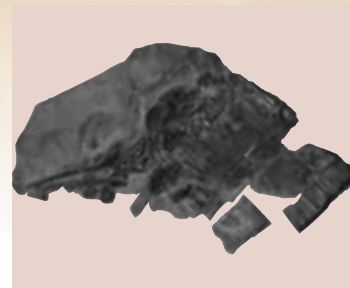
第1回田束山つつじまつり (昭和53年)



町営バス運行開始 (昭和53年)



国有鉄道気仙沼線全線開通 (昭和52年)



ウタツギヨリユウ化石国の天然記念物に指定 (昭和50年)



学校給食パン加工民間委託 (昭和47年)



保健センター落成 (昭和56年)



青年団コーラス最優秀賞受賞 (昭和54年)



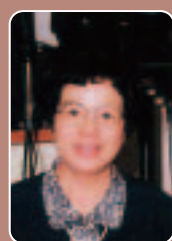
吉野沢に宅地分譲団地造成 (昭和53年)



歌津大橋開通 (昭和47年)



川での魚とり、天神山での遊び、小さな庭では思いっきり遊んだ。庭には枝の巻かれた紅葉の木があり優しく日影を作ってくれた。この分校で学んだことを誇りに思っている。



(伊里前上) 佐藤 たかしさん

## 私が通った上沢分校

昭和から平成と隣り間に過ぎ70余年、激動の時代である。歌津に生まれ、歌津で生活し、今振り返って見て一番の思い出は、幼い頃の上沢分校での生活だ。「先生がおいでになりました。」歩いてくる先生のお姿を見つけると誰かが知らせる。子供達は遊びをやめ門の両側に2列に並んで待つ、「おはようございます。」これが上沢分校の1日の始まりだ。1年生から4年生までの複式学級、しかも大人数である。そこで勉強した日々が今でも鮮明に思い出される。

江島先生という男先生で、伊里前から歩いて通われた。私の兄弟11人みんな先生に教わった。先生は一人ひとりの個性を生かした教育をしてくださった。勉強は勿論のこと、ここの自然学習は今でも忘れられない。

## 追想 役場今昔

南三陸町の誕生は時代の要請とはいえ「歌津町」と言う名が消滅することに万感胸に迫るものがあります。今閉町に当り役場の過去を振り返ると奉職したのが昭和16年9月26日「歌津村給仕を命ずる。日給60銭を給する」勿論無試験採用でした。電話も村内に5台位で役場の機構も庶務と財務にわかれ、職員数は約15人位でした。歴代の任命権者は小沢文隆氏、阿部権之丞氏、千葉茂一氏、牧野興次氏、千葉雄一氏、佐藤榮太郎氏の6人に仕え昭和57年10月定年退職まで38年お世話になり、この間思い出深いものは戦中召集令状や戦死の公報を届けに行って家族に泣かれたことは今でも鮮明に覚えています。戦後は物資の配給、農繁託児所の開設、滞納整理で毎日外勤。社協の法人格取得、保育所の開設、明治昭和の津波犠牲者施餓鬼の実施、自衛隊による名小学校庭拡張工事等の係を担当。又上下水道の新設と気仙沼線開通祝賀行事の計画、そして一番列車到着の感激は終生忘れられない思い出です。





- 6月 町内二農協合併、歌津町農業協同組合誕生
- 9月 歌津町民俗資料館オープン
- 9月 宮方地区水田基盤整備事業実施
- 昭和58年 2月 農業共済組合が合併、気仙沼本吉地方農業共済組合誕生
- 昭和59年 6月 町長に佐藤榮太郎氏当選
- 昭和60年 10月 町体育協会文部大臣賞受賞
- 10月 国勢調査 人口6,152人 世帯数1,346
- 昭和61年 3月 町史発刊
- 8月 8/5豪雨 雨量342.6mm (被害額1億9千万円)
- 昭和62年 4月 弘川ダム建設予備調査開始
- 5月 満海上人400年祭
- 5月 歌津町議会議員定数を16人に改正
- 昭和63年 6月 町長に佐藤榮太郎氏当選
- 6月 町営総合グラウンド造成工事
- 6月 田束山生活環境保全林整備事業開始
- 6月 歌津・志津川両町森林組合が合併、志津川歌津森林組合誕生
- 6月 小屋の沢林道拡幅改良工事開始
- 昭和64年 1月 天皇陛下崩御、年号が「平成」になる
- 平成元年 3月 JR気仙沼線快速「南三陸号」歌津駅に停車開始
- 4月 開村100年、町制施行30周年を迎える
- 9月 郡内初「中学生たつがね駅伝競走大会」本町のコースで開催
- 平成2年 2月 老人福祉センター、デイ・サービスセンター落成
- 5月 平成の森林間広場完成
- 7月 第1回くろしおゲートボール大会開催
- 8月 初の外国人英語指導助手「カウカス・J・リー先生」着任
- 10月 国勢調査 人口6,056人 世帯数1,368
- 世帯 水産振興センター・魚竜館落成
- 11月 ふるさと創生大学第1期生開校
- 平成3年 4月 名足小学校「全日本学校緑化コンクール」特選入賞
- 8月 平成の森野球場完成、イースタンリーグ巨人対大洋戦
- 平成4年 4月 歌津中学校特別教室完成、パソコン20台設置
- 4月 精神障害者小規模作業所開設
- 5月 県内初、ナイター野球リーグ戦開幕
- 6月 町長に牧野駿氏初当選
- 6月 鹿島アントラーズ平成の森で合宿
- 8月 第1回歌津恋来い浜まつり開催
- 平成5年 2月 町社協、入浴車による訪問入浴サービス開始
- 3月 町特産品いちじくワイン「楽園のしずく」誕生
- 仲人等奨励金贈呈制度開始



町特産品いちじくワイン「楽園のしずく」誕生(平成5年)



歌津中学校特別教室完成、パソコン20台設置(平成4年)



平成の森野球場完成 イースタンリーグ巨人×大洋戦(平成3年)



水産振興センター・魚竜館落成(平成2年)



老人福祉センター、デイ・サービスセンター落成(平成2年)



満海上人400年祭(昭和62年)



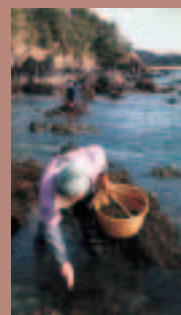
名足小昔のあそび時間(昭和61年)



8月5日豪雨 被害額1億9千万円(昭和61年)



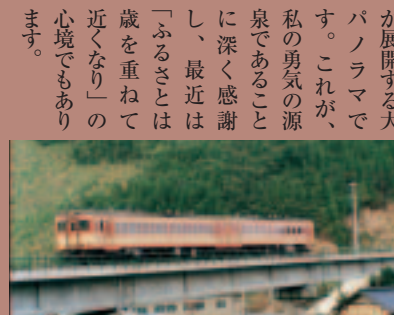
第20回町民運動会(昭和60年)



私の生まれた頃は歌津村でした。1年生の頃は太平洋戦争が始まった年で、5年生の8月15日終戦となり先生と共に悔しさのあまり涙を流しました。20才位までの歌津を振り返りますと、1番目は海岸等がいつも清らかであった事、2番目には毛ガニ、真タコ、海藻類等天然の魚介類が沢山取れ、そのお陰で佐沼方面に海の幸を持参して米と交換して帰り、家族を養ったことが思い出されます。海の恵を受けながら生活していると自然と各家庭も豊かになって、衣食住も変わってきました。昭和30年代になり北洋でサケ鱒の漁に出る様になり、3ヶ月の操業で各船大漁で寄港するところができました。それからサンマ漁や鮪漁に出漁して所得を得、各自が豊かになった様でしたが、良い生活も何年も続かず北洋母船式も年ごとに減船が続く、中部船のみとなり、働き盛りの若者が働く会社もなく、長男にはお嫁さんはなく、親様も毎日のように頭痛になるばかりとの話も耳にしました。以前のように地域の海で生物が多く採取出来る様、一人ひとりが自覚して生命を育てられる大切な海を守り、沿岸漁業で生活を営んで行く様になれば若者も漁に専念できるし、お嫁さんも昔の様に簡単に迎えられる様になるかも。歌津村から町になる頃を現在でも私としては頭から離れない良い思い出とし、そして南三陸町になっても自然を愛し山海を大切に生活を営んで生きたい。



(菰の浜) 阿部 文夫さん



私のなかの故郷は、泊浜から眺めた万物の母である大海原と、歌津の里を抱擁する田束山の雄姿とが展開する大パノラマです。これが、私の勇気の源泉であることに深く感謝し、最近「ふるさと」は歳を重ねて「近くなり」の心境でもあります。

鉄道のない町  
45年も前の話です。大蔵本省(現財務本省)に赴任したとき、先輩の「歌津ってどこ、国鉄の最寄の駅は」の問い。「石巻と石越です」の答え、「何キロある?」そんな遠いところは最寄の駅とは言わないよ、鉄道のない田舎の出か」と。この質問、悔しさをバネに仕事と勉強に取り組めるかどうか、根性のテストだったらしい。そのとき肝に銘じたものが2つ。1つは鉄道はないが自分には素晴らしい故郷があること、2つは東京に出たんだ、若いうちに勉強し幅広い知識を身に付けることが何よりの武器になることだと。昭和52年12月11日、めでたく気仙沼線は全線開通しました。私のなかでは、歌津町が全国に認められた最初と記憶しています。私のなかの故郷は、泊浜から眺めた万物の母である大海原と、歌津の里を抱擁する田束山の雄姿とが展開する大パノラマです。これが、私の勇気の源泉であることに深く感謝し、最近「ふるさと」は歳を重ねて「近くなり」の心境でもあります。



茨城県つくば市在住(泊浜出身) 三浦 富彦さん



- 11月 歌津中学校屋内体育館並びに柔剣道場落成

11月 宮城の創作郷土芸能「歌津龍の舞」ドイツで公演

11月 第1回中学生国外交流、ドイツ訪問

平成6年

3月 伊里前漁港2種漁港に昇格

4月 少子化対策「ほのぼの養育奨励金」制度開始

9月 浅野史郎宮城県知事「知事さんあのね…」本町で開催

11月 小学生創作ミュージカル「TATSUGANEの詩」

「潮騒のロンド」初公演

平成7年

4月 町社協、在宅老人に夕食宅配サービス開始

5月 平成の森長期滞在施設及びアリーナ落成

7月 「広報うたつ」2000号記念中学生議会開催

10月 国勢調査 人口5,775人 世帯数1,375世帯

11月 伊里前保育所移転新築落成

12月 志津川消防署歌津出張所に救急車配置

平成8年

4月 町内二漁協合併、歌津町漁業協同組合誕生

6月 町長に牧野駿氏当選

9月 本吉郡中学校駅伝競走大会で歌津中学校初の男女優勝

10月 名足小学校校舎新築落成

平成9年

4月 ごみ収集に指定袋制導入

8月 JR歌津駅、乗車券・特急券・指定券等JR線全切符発売開始

12月 JR気仙沼線全線開通20周年迎える

平成10年

3月 町道白松線拡幅改良工事完成

4月 小学生創作ミュージカル「第2回ふるさとイベント大賞」自治大臣から受賞

4月 歌津町在宅介護支援センター開設

5月 カナダから魚竜化石「シヤスタザウルス」(レプリカ)寄贈

7月 第10回記念東北ブロック・グラウンドゴルフ大会平成の森で開催

平成11年

1月 ゴミの分別収集開始

4月 町制施行40周年を迎え、名誉町民顕彰式・記念式典同時開催

4月 名誉町民に畠山郁朗翁・佐藤榮太郎翁の両氏推戴

4月 歌津町漁業協同組合女性部発足

5月 歌津町健康づくり計画策定

5月 ドイツ、ホルツマーデンより魚竜化石(1億8千万年前)魚竜館に納入される

5月 グループホーム「希望が丘」オープン

7月 「世界(5ヶ国)の魚竜化石」特別展示

7月 石泉地区に活性化センター「いずみ」オープン

7月 町制施行40周年記念

8月 NHKラジオ夏期巡回「ラジオ体操会」開催

8月 交通死亡事故ゼロ2000日達成

9月 山形県立川町と友好町締結

10月 第7回中学生国外交流ドイツ、イタリア両国訪問

10月 イタリア共和国ベザーノ町と国際友好都市盟約締結(ベザーノ町長以下30名来町)

11月 国際魚竜サミット「魚竜化石と自然史博物館」開催

11月 広域農道歌津工区開通式

平成12年

1月 津龍院で「龍の爪」12年ぶりに公開

1月 歌津中学校創立50周年を迎える

2月 歌津町漁業協同組合新事務所並びに漁業活性化推進施設完成



イタリア共和国ベザーノ町国際友好都市締結(平成11年)



NHKラジオ夏期巡回「ラジオ体操会」開催(平成11年)



第10回記念東北ブロック・グラウンドゴルフ大会平成の森で開催(平成10年)



町道白松線拡幅改良工事完成(平成10年)



名足小学校旧校舎



名足小学校新校舎落成(平成8年)



名足小学校校舎新築落成(平成8年)



広域農道歌津工区開通式(平成11年)



立川町友好町締結(平成11年)



グループホーム「希望が丘」オープン(平成11年)



歌津町在宅介護支援センター開設(平成10年)



第2回ふるさとイベント大賞受賞(平成10年)



本吉郡中学校駅伝競走大会で歌津中学校初の男女優勝(平成8年)



(中在) 千葉 享さん

あの日の時

思い出

霊峰田東山を背にリアス式の海に面した、風光明媚な豊かな自然に恵まれた素晴らしい町に生まれ育ち、農林業を営みながら、59年間お世話になってまいりました。

昭和34年町政施行以来46年余り、海山大地の恵みを頂きながら単独町村としてきめ細かな住民サービスが出来人々の生活も人々が、活力に満ちた素晴らしい町だと思っております。このような環境の中私も様々な思い出や体験をさせて頂きました。特に青春時代青年団活動、4日クラブ、青少年クラブ等で多くの友や仲間同志でスポーツ大会、演劇、盆踊り大会に参加をし青春時代を楽しんだ事を思い出します。又町民運動会、部落対抗野球大会など一区の区長さんと共に体育推進員として選手

の選考をお願いし苦勞しながらも優勝出来て喜び合った事も思い出します。私も来年還暦を迎えますが歌津町も46年余りの歴史と文化を残し10月1日南三陸町としてスタートします。

両町とも同じ様な産業形態です。なのでお互いのメリットを生かし合併して良かつたと思われる町になることを願うものです。



(港) 高橋 正さん

「みなと分校なま」への手紙  
拝啓 港分校同窓生におかれましては皆様、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。おじいちゃんから孫まで、3代にわたり学び遊んだ地元在住の分校仲間もしつかりとふるさとで頑張っておりますのでご安心下さい。今度、市町村合併で、我が歌津町と隣の志津川町が合併してこの10月1日に「南三陸町」としてスタートすることになりました。皆さんは、分校仲間として、愛郷の地「港」をあとにして何年が経ちますか。私たちの心のふるさと「港分校」は、歌津町史によると、遠くは明治20年に設置され、時代の変遷を経て昭和45年3月を以て廃校になるまで実に80年余の長きにわたり港地区の生活、文化の拠点として歴史を刻んでまいりました。昭和52年の鉄道の開通、粉塵を上げていたこの国道の整備の中で分断され、今は港海苔店の工場として、スレート葺きの校舎の一部に面影をとどめるだけとなりました。私たちの思いのついでに、私たちが消えたことは残念ですが、交通網の発達により港地区は昔の面影をほとんどないほど変わりました。大きく発展し、皆さん元気で楽しく過ごしておりますのでご安心下さい。分校の上にあった小高い森の中から私たちが温かく見守られていた、久須志神社は時代の移り変わりを見守りながら、今も、皆さんや、港地区民の安寧を願ひ静かに佇んでいます。港分校は地区民の心の拠り所であり、「記念館」といった震災記念館での青年団の主催する村祭りや、芝居映画鑑賞などの娯楽の少なかった時代のみなの楽しみの場でした。朝読みの会「あさよみ会」といって夏休みになると、早朝に分校にあつまり、先輩が小さい子を面倒見ながら勉強させる、集まりがありました。みなさんの思い出を大切に、皆さんの心のふるさと「港分校」に共に学んだ仲間として、これからは温かく見守り、応援してください。新町になっても、「ふるさと、港」はいつまでも皆さんを忘れません。敬具



3月 高区地区簡易水道完成  
3月 老人保健施設「つつじ苑」完成  
3月 志津川消防署歌津出張所移転新庁舎完成  
3月 介護保険制度開始  
4月 町長に牧野駿氏当選  
5月 イタリア共和国ベザーノ町長と国際電話対談実施  
6月 平成の森を会場に第41回宮城県消防操法大会開催  
7月 歌津町ポイ捨て禁止及び環境美化を推進する条例施行  
10月 国勢調査 人口5,642人 世帯数1,392世帯

平成13年  
2月 伊里前小学校校舎新築落成  
3月 イタリア共和国ベザーノ町公式訪問(15名)  
5月 「うたつ山海市」開所  
9月 第56回みやぎ国体グラウンド・ゴルフ競技(デモスボ行事)開催  
10月 みやぎ国体大会旗・炬火リレー開催  
10月 みやぎ国体成年女子9人制バレーボール競技開催(志津川町・津山町と合同開催)  
12月 本吉町との行政界確定協定締結調印

平成14年  
3月 伊里前地区公共下水道事業「歌津浄化センター」完成し一部地域で供用開始  
3月 私立たつがね保育園閉園  
3月 歌津町出稼者連絡協議会解散  
6月 イタリア共和国ローマ県評議員来町  
9月 ワモンアザラシ「ウタちゃん」が伊里前川に来遊、全国からマスコミ、見物客が多数来町  
10月 「ウタちゃん」来遊記念「アザラシシンポジウム」開催

平成15年  
1月 馬場・中山・名足漁港が合併し「ばなな漁港」に名称変更  
3月 「市町村合併に関する本吉郡南部自治体研究会」へ参画  
4月 連携型中高一貫教育開始  
6月 「志津川町・歌津町合併協議会設立準備会」設置  
8月 「志津川町・歌津町合併協議会」設置  
12月 「広報うたつ」300号発刊

平成16年  
1月 志津川町との合併後の新町の名称が「南三陸町」に決定  
5月 町長に牧野駿氏当選  
11月 アワビ稚貝の標識放流開始

平成17年  
1月 志津川町と合併協定調印  
2月 合併に関する「廃置分合」関連4議案が歌津町・志津川町議会において全会一致で可決され宮城県知事へ合併申請  
2月 戸籍事務の電算化運用開始  
3月 歌津中学校校舎大規模改修(耐震化)事業完成  
3月 宮城県知事より廃置分合決定書交付  
3月 JR歌津駅乗車券発売所完成  
4月 歌津町商工会が志津川町商工会と合併し「南三陸商工会」誕生  
9月 町の廃置分合について総務大臣より官報にて告示(総務省告示第442号)  
9月 歌津町閉町記念式典開催



志津川町と合併協定調印 (平成17年)



アワビ稚貝の標識放流開始 (平成16年)



ワモンアザラシ「ウタちゃん」が伊里前川に來遊、全国からマスコミ、見物客が多数來町(平成14年)



みやぎ国体成年女子9人制バレーボール競技開催(平成13年)



みやぎ国体旗・炬火リレー開催 (平成13年)



平成の森を会場に第41回宮城県消防操法大会開催 (平成12年)



JR歌津駅乗車券発売所完成 (平成17年)



アワビ稚貝の標識放流開始 (平成16年)



歌津浄化センター完成 (平成14年)



伊里前小学校旧校舎



伊里前小学校校舎落成 (平成13年)



本吉町との行政界確定協定締結調印 (平成13年)



イタリア共和国ベザーノ町公式訪問 (平成13年)

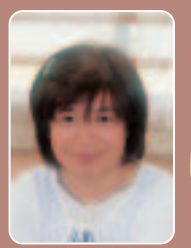
ふると自慢ではありませんが、宮城県は全国でも美味しいものが数多く揃った県であり、さらにその中でも歌津・志津川ほど多様で豊かな食材に恵まれた地域もないのでは、などと、常々思うことがあります。これと四季折々に魅せる自然の風景はまさに歌津の大切な財産でしょう。どうぞ、「南三陸」という名称にふさわしい、これまでも以上に情緒と自然が豊かで人間味溢れる町であれと願います。



仙台市在住(中在出身)  
大津 充さん

平成の大合併により、いよいよ平成の大合併により、「南三陸町」が誕生することになり、「歌津町」という町の名がなくなります。歌津町の象徴の一つとでもいえるべき田東山(正面?)に見上げる田表(中在)で育った私としては、「うたつ」という町がなくなることに一抹の寂しさを感じますが、住所表示に「歌津」が残ると聞いていますし、ましてやあの海や山が突然消えてしまうわけでもなく、まずは「南三陸町」という船が、希望に彩られ悠然と出航されることを心からお祝いしたいと思っています。

私事ですが、仙台に住むようになって早くも11年目となりました。多くの歌津町出身者が自分の中にふると歌津のイメージというものを持っていると思います。私の場合は食べ物もそのひとつでしょうか。



(田の浦)  
佐藤 美香さん

青森の短大を卒業し、社会人としての第一歩を私は、昭和62年4月、歌津町立伊里前保育所の臨時保母として踏み出しました。

その当時、伊里前保育所は、歌津町伊里前100番地にあり、見上げれば小学校、中学校と続く学校坂の真下に建っていました。私がお世話になった2年の中で、最も印象深かった出来事は、昭和天皇の御崩御です。

甲旗半旗を上げ歌舞音曲を慎みながらの保育は、とても珍しく不謹慎ながら興味深い出来事であったと記憶しています。

喪が明けて「平成」と年号が公布されると何故かそれまでの葬送の雰囲気は払拭され、新たな時代の到来を予感させたものでした。伊里前保育所が現在地に移転して早10年。時代のニーズに応え、未満児保育の充実や延長保育の実施等、益々地域に根ざした保育所として進化を続けています。子ども達の大きな未来と町民が安心して暮らせる町づくりに期待し新町の「出航」を祝福致します。





# 行政・議会

A photograph of three men in suits sitting at a table. The man on the left is wearing a dark suit and a patterned tie. The man in the center is wearing a light blue suit and a blue tie. The man on the right is wearing a dark suit and a blue and white striped tie. They are all smiling and looking towards the camera. The background is a wooden wall.

収入役	町長	助役
大津 三郎	牧野 駿	阿部 東夫

（町制施行後）

◎歴代町長

初・2	阿部 権之丞	（昭和27年6月10日）～昭和39年6月9日）
3・4	牧 野 興 次	（昭和39年6月10日）～昭和47年6月9日）
5	千 葉 雄 一	（昭和47年6月10日）～昭和51年6月9日）
6・7・8・9	佐 藤 榮太郎	（昭和51年6月10日）～平成4年6月9日）
10・11・12・13	牧 野 駿	（平成4年6月10日）～現在）

◎歴代助役

初・2	菅 原 成 行	（昭和32年5月15日）～昭和40年5月14日）
3・4	阿 部 勝 雄	（昭和42年1月24日）～昭和48年8月5日）
5	高 橋 森 雄	（昭和49年7月1日）～昭和51年1月）
6・7・8	高 橋 三 郎	（昭和51年10月1日）～昭和62年3月31日）
9・10	小 野 實	（昭和62年4月14日）～平成4年5月20日）
11・12	佐 藤 萬	（平成4年10月5日）～平成12年10月4日）
13・14	阿 部 東 夫	（平成12年12月20日）～現在）

◎歴代収入役

初・2・3	千 葉 清 一	（昭和30年7月18日）～昭和42年7月17日）
4・5・6	高 橋 三 郎	（昭和42年8月2日）～昭和51年9月30日）
7	佐 藤 直 三	（昭和55年9月2日）～昭和59年9月10日）
8・9	小 野 實	（昭和62年4月14日）～平成4年5月20日）
10・11	佐 藤 萬	（平成4年10月5日）～平成9年8月31日）
12・13	大 津 三 郎	（平成9年4月1日）～現在）



(町制施行後)

◎ 歴代議員

川	阿部庄六	阿部丑一郎	加藤勝雄	三浦清一郎	阿陽三郎	及川新長四郎	千葉長門	阿部昇	三浦寬	及川茂雄	三浦信隆	稻葉留治	小野寺倉之助	菅原成雄	昭和38年4月	及川寶三郎	三浦寛	昭和三十五年6月補選	阿部勝雄	昭和35年5月19日退任 昭和35年5月28日退任	千葉雄一	昭和34年9月17日逝去	阿部栄太郎	加藤勝雄	三浦清一郎	三浦勇五郎	及川陽三	高橋謙弥	千葉芳之助	三浦正	渡辺久藏	三浦信隆	及川庄六	小野寺倉之助	梶原誠一	阿部基三郎	菅原成雄	昭和34年4月
---	------	-------	------	-------	------	--------	------	-----	-----	------	------	------	--------	------	---------	-------	-----	------------	------	------------------------------	------	--------------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	-----	------	------	------	--------	------	-------	------	---------

[illegible]

菅原成雄	及川庄六	(昭和49年11月24日退任)	高橋森雄	(昭和49年6月30日退任)	昭和50年4月	三浦寛	大坂平太夫	佐浦捨治郎	山内正孝	三浦清一	石瀬由丸	及川萬三	山内正孝	内海典	三浦捨治郎	及川国太郎
菅原成雄	及川庄六	(昭和49年11月24日退任)	高橋森雄	(昭和49年6月30日退任)	昭和50年4月	三浦寛	大坂平太夫	佐浦捨治郎	山内正孝	三浦清一	石瀬由丸	及川萬三	山内正孝	内海典	三浦捨治郎	及川国太郎

千	及	内	山	及	三	高	男	大	佐	三	高	横	及	阿	昭	千
橋	浦	川	浦	川	浦	橋	澤	坂	藤	浦	橋	山	川	川	和	葉
森	治	清	清	國	一	萬	森	主	德	大	一	俊	清	勝	4	一
雄	海	助	雄	建	成	一	雄	郎	夫	典	誠	助	助	雄	月	成
平成3年4月																
昭62年4月																
千	及	内	山	及	三	高	男	大	佐	三	高	横	及	阿	昭	千
葉	川	海	浦	川	浦	橋	澤	坂	藤	浦	橋	山	川	川	和	葉
一	國	大	捨	正	萬	清	春	平	主	清	森	利	茂	清	勝	一
成	太	郎	治	孝	一	三	治	夫	太	喜	雄	平	雄	助	雄	成

[illegible]

◎歴代副議長（就任年月）

初	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
阿部雄一	千葉勝雄	加藤勝雄	三浦寛	稲葉留治	及川陽三	及川庄六	及川茂雄	大坂平太夫	阿部勝雄	及川清之助	及川清之助	男澤達夫	千葉一成	佐藤圭太郎	山内一郎	三浦清三	三浦清人
(昭和30年5月)	(昭和34年5月)	(昭和36年2月)	(昭和38年5月)	(昭和41年1月)	(昭和42年5月)	(昭和44年2月)	(昭和46年5月)	(昭和50年5月)	(昭和53年10月)	(昭和54年5月)	(昭和58年5月)	(昭和62年5月)	(平成3年4月)	(平成5年4月)	(平成7年5月)	(平成11年4月)	(平成15年5月)現在

◎歴代教育長（就任年月）

初	2	3	5	6	7	9	11	13	14
高橋	佐々木	梶原	佐藤	小野	佐々木	佐藤	千葉	江島	三浦
政吉	勝十郎	良雄	榮太郎	實	早苗	直三	雄次	孝夫	英治
(昭和28年4月)	(昭和37年10月)	(昭和41年10月)	(昭和49年10月)	(昭和51年1月)	(昭和51年3月)	(昭和59年10月)	(平成2年10月)	(平成9年10月)	(平成13年10月)
現任			職務代行						

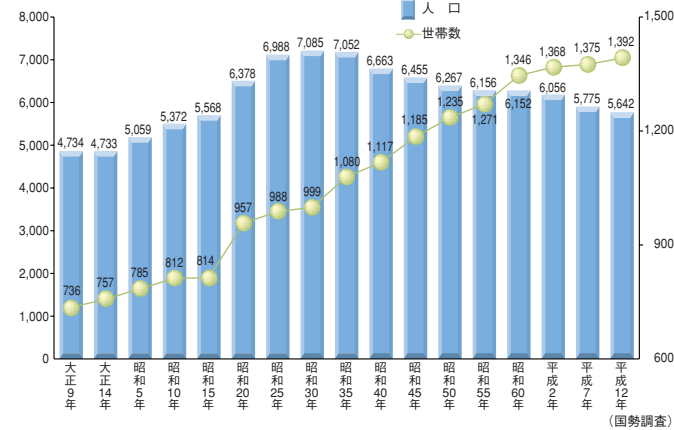
◎ 名誉町民

阿部	榎之丞氏	（昭和46年11月推載）
梶原	良雄氏	（昭和54年11月推載）
畠山	郁朗氏	（平成11年4月推載）
佐藤	榮太郎氏	（平成11年4月推載）

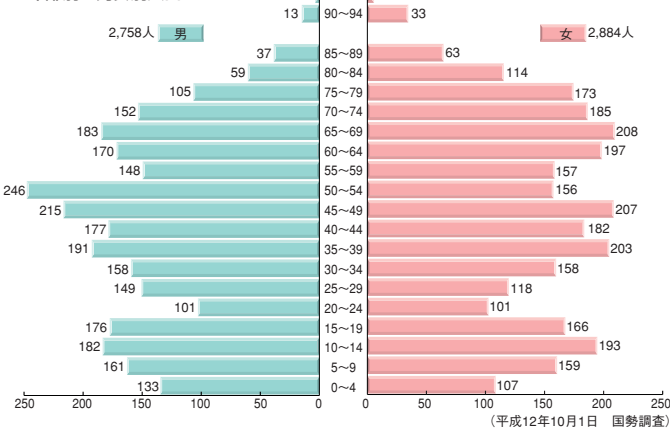


# 資料編

■人口・世帯数の推移



■年齢別・男女別人口

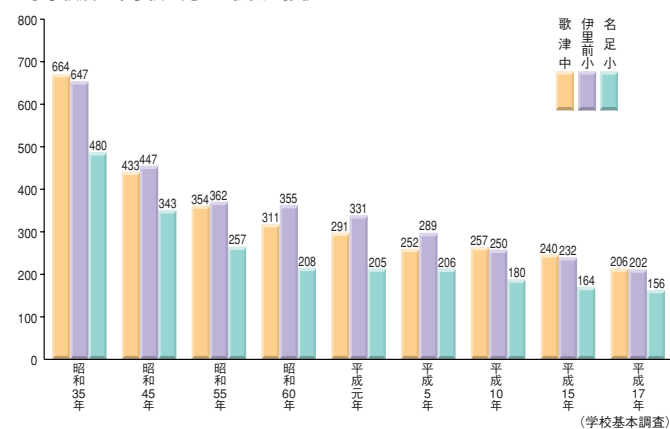


■行政区別人口・世帯数

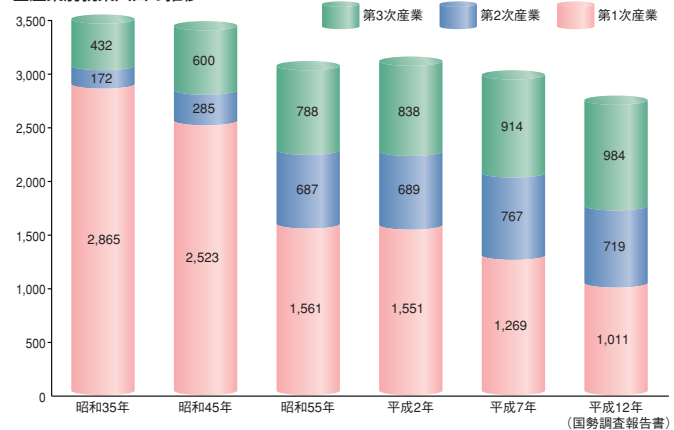
行政区	世帯数	男女別人口			年齢別人口										
		男	女	計	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
弘川	12	8	25	43	4	4	1	6	4	5	8	7	3	1	0
上沢	33	52	53	105	6	6	9	10	15	18	17	10	13	1	0
樋の口	13	24	27	51	0	9	1	0	11	9	2	10	9	0	0
中在	25	41	43	84	9	5	16	11	6	10	10	9	5	3	0
石泉	88	164	153	317	27	46	33	28	46	60	32	26	16	3	0
蓮の浜	71	141	160	301	25	19	28	37	36	43	49	38	24	2	0
寄木	46	103	98	201	13	32	12	18	36	23	27	30	9	1	0
伊里前上	202	313	344	657	62	95	46	67	90	99	69	88	35	6	0
伊里前下	203	307	336	643	49	80	62	71	89	118	72	55	42	5	0
館浜	79	180	171	351	33	34	37	42	47	50	35	49	21	3	0
泊浜	134	301	297	598	44	63	58	64	90	97	62	71	42	7	0
馬場	45	109	109	218	23	25	18	27	29	23	29	32	10	2	0
中山	54	114	131	245	25	34	13	33	34	25	36	27	14	4	0
名足	148	281	282	563	62	77	51	70	81	69	64	65	18	6	0
石浜	63	123	132	255	13	23	25	30	33	40	34	32	22	2	1
田の浦	97	194	210	404	25	60	39	40	61	52	43	57	25	2	0
港	122	263	257	520	42	57	48	63	57	86	66	57	36	8	0
計	1,435	2,728	2,828	5,556	462	669	497	617	765	827	655	663	344	56	1

(平成17年7月31日 住民基本台帳)

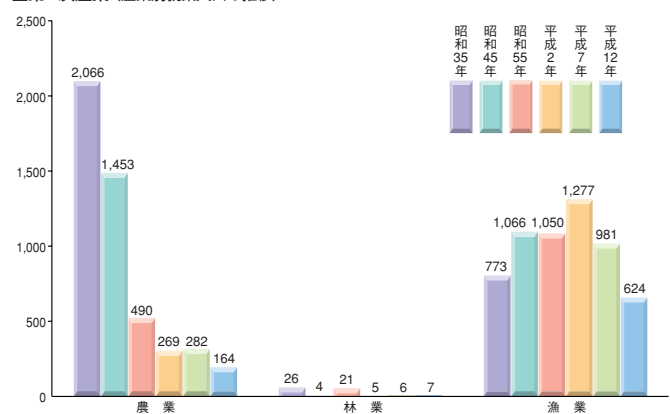
■小学校及び中学校の児童生徒数の推移



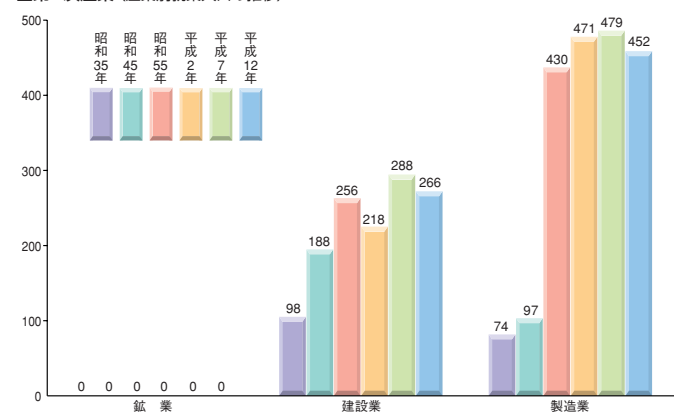
■産業別就業人口の推移



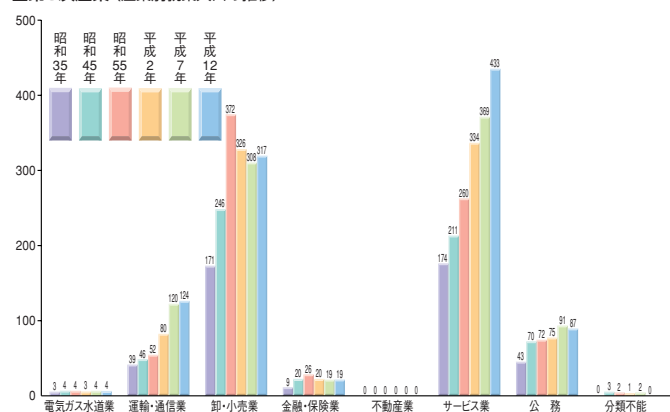
■第1次産業〈産業別就業人口の推移〉



■第2次産業〈産業別就業人口の推移〉



■第3次産業〈産業別就業人口の推移〉



誕生 8.3日に1人



結婚 20.3日に1組

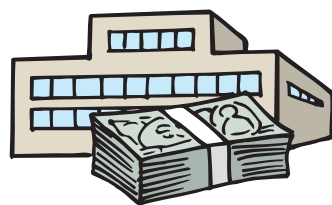


転入 3.7日に1人



救急車出動 2.1日に1回

※1



町の予算 町民1人当たり  
479,440円

イラストで  
見る歌津町  
平成16年度



転出 2.3日に1人



事故 5.9日に1件

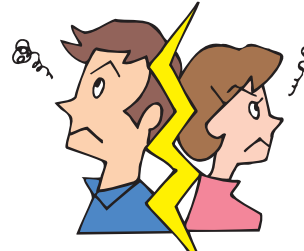
※2



上水道使用量 1日1人当たり  
245リットル



死亡 7.5日に1人



離婚 60.8日に1組



一世帯当りの家族 3.9人



火災 182.5日に1件



消防団員数 町民23.0人に  
1人

参考:平成17年3月31日現在の住民基本台帳 人口 男2,728人 女2,839人 計5,567人 世帯数1,433世帯  
※1は17年度当初予算(一般会計)÷17年4月1日現在住民基本台帳人口(5,567人)で算出  
※2は16年度有収水量÷17年3月31日現在給水人口(5,048人)で算出





2002・10月号



1993・5月号



1988・2月号

# 広報のピックアップ 移り変わり



2003・12月号



1995・8月号



1989・4月号



1984・4月号



1978・1月号



2005・6月号



1997・6月号



1991・9月号



1985・3月号



1980・1月号



2005・3月号



1999・4月号



1992・7月号

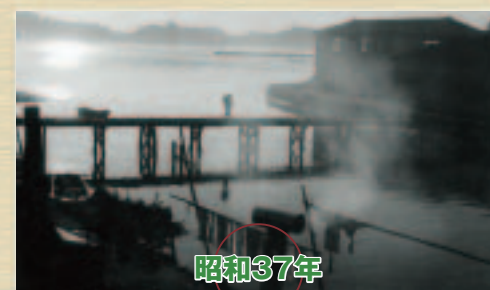


1987・4月号



1982・4月号

本誌発刊にあたり、次の方々より写真掲載のご協力をいただきました。(五十音順)  
及川 国太郎さん(馬場)・及川 幸子さん(伊里前上)・及川 徹さん(伊里前上)・男澤 克己さん(埼玉県新座市)・佐藤 幸夫さん(伊里前上)・高橋 静男さん(伊里前上)



昭和37年



現在

伊里前川河口



昭和30年



現在

ばなな漁港(馬場地区)



昭和54年



現在

田束山



昭和35年



現在

伊里前地区の街並み



昭和45年



現在

名足小学校



昭和37年

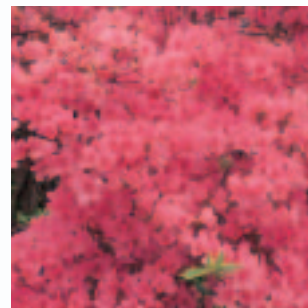


現在

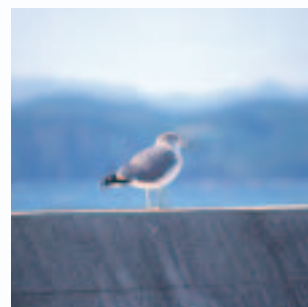
稲渚海岸

# 写真で見る 町の移り変わり

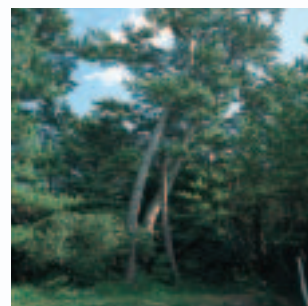




町花：つつじ



町鳥：かもめ



町木：まつ



町章

ウタツの“ウ”が原形で、  
中心の部分は山と海を表し、  
全体を円形にまとめたのは町の平和と発展を  
強く表徴したものです。

### 歌津町閉町記念誌

企画・発行／歌津町企画観光課

平成17年9月

宮城県本吉郡歌津町字伊里前91番地

TEL 0226-36-2111

FAX 0226-36-2550

印刷／川嶋印刷株式会社